

報道機関各位

2012年9月28日

慶應義塾図書館

丸善株式会社

第24回慶應義塾図書館貴重書展示会

ルカ・パチョーリの『スムマ』から福澤へ ～複式簿記の伝播と会計の進化～

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善株式会社

入場無料

- 会期：2012年10月24日（水）～10月30日（火）9：30～20：30（最終日は17時閉場）
- 会場：丸善・日本橋店3階ギャラリー Tel (03) 6214-2001
〒103-8245 東京都中央区日本橋2-3-10

慶應義塾図書館が所蔵する数ある貴重書を各回テーマに沿って展示する「貴重書展示会」は、今年で24回を数え、毎回、貴重な蔵書が一般に無料公開される機会として、多くの来場者を迎えています。今回は8年ぶりの日本橋店での開催となります。

◎展示内容

複式簿記は、福澤諭吉が明治初期にアメリカの教科書を翻訳した『帳合之法(ちょうあいのほう)』などにより日本に紹介されました。これを初めに記した中世イタリアの数学者ルカ・パチョーリの『スムマ(Summa)』から、時代や各国を経た会計(簿記)の変遷を辿ります。慶應義塾図書館が所蔵する『スムマ(Summa)』、『帳合之法』などの貴重書から36点を厳選して展示し、この中には、**福澤諭吉の自筆による『草稿・帳合之法』も含まれています。**

[14、15世紀イタリア→16、17世紀ネーデルラント→18、19世紀イギリス]という複式簿記の伝播は、当時の経済発展の道筋と重なります。経済の発展による事業規模の拡大や事業形態の複雑化が、それらを記録するために複式簿記を必要としたことがよくわかる展示となっています。



友岡賛(慶應義塾大学教授)によるギャラリートークのご案内

[於；丸善・日本橋店3階ギャラリー] (事前予約不要)

10月26日(金)・10月27日(土) 両日とも14：00～14：20

今回の展示会の監修者・慶應義塾大学 友岡教授によるギャラリートークを開催します。友岡教授の軽妙な語りにより、堅苦しく捉えがちな簿記と会計の歴史が身近で楽しいものを感じられるはずです。

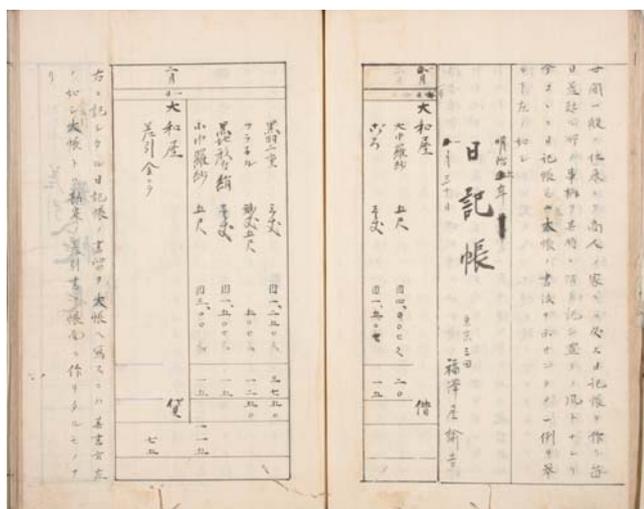
【主な出展作品のご紹介】

■福澤諭吉訳『帳合之法』 1873～1876年刊（慶應義塾出版局）・福澤諭吉自筆草稿

日本で初めて出版された西洋式簿記書で、アメリカで広く用いられていた教科書を翻訳したものです。福澤諭吉は、原書の横書きアラビア数字に替えて、漢数字と〇（ゼロ）を併用した十進表記による縦書き帳簿を考案しました。この十進記数法はのちに続く簿記書に取り入れられました。数々の巧みな訳語は注目に値します。訳者の序では、「古来日本国中に於て、学者は必ず貧乏なり」とはじまり、簿記を学ぶことの意義を啓蒙的に説いています。のちに書かれた『福澤全集緒言』には、「著訳書中、最も筆を労した」と書かれ、翻訳のきっかけや苦心した点などが綴られています。



『帳合之法』刊本



福澤諭吉自筆原稿「帳合之法」

■ルカ・パチョーリ

『スママ (Summa)』(算数、幾何、比率、及びに比例全書) 1494年刊

複式簿記について述べた最古の書。著者ルカ・パチョーリは中世イタリアの数学者にして修道僧で、ダ・ヴィンチと親交があったことでも知られています。ルカ・パチョーリは本書で、当時のヴェネツィア商人によって行われていた簿記を体系化して紹介し、その後の複式簿記の伝播に大きな影響を与えました。初版には3種類の異版があり、本書は初版第1刷です。



『スママ』簿記に関するページ冒頭



『スママ』本文巻頭

絵の中の僧侶がルカ・パチョーリ

★慶應義塾図書館貴重書展示会 http://www.mita.lib.keio.ac.jp/archives/exhibit/annual_exhibition

★丸善・日本橋店催し物情報 http://www.junkudo.co.jp/tenpo/shop-maruzen_nihonbashi.html

【お問い合わせ】

丸善株式会社 経営管理部 川澄 TEL 03-6367-6006